

# 沖縄の貴重な生物—絶滅危惧種トカゲハゼ—

## ■ 生物多様性を保全するために

地球上に知られる生物の種数は約 140 万種で、未発見のものも含めると全種数は 1000 万種とも 3000 万種とも言われています。しかし、現在、年間 4 万種もの大絶滅が進行しているとされ、多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。これらの動植物を保全するためには、その生態の理解が不可欠です。当社では、絶滅危惧種の保全を目指して、その生態の解明と一般への理解の普及に努めています。

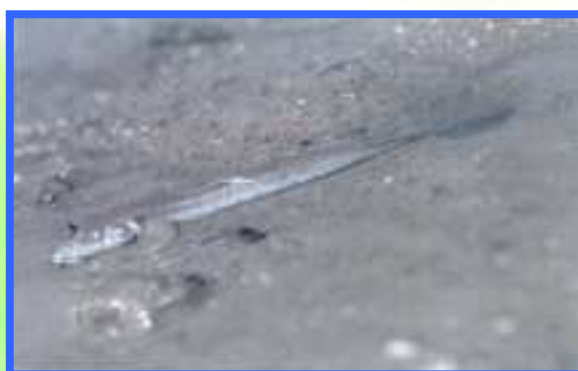
その中で、沖縄県の絶滅危惧種「トカゲハゼ」の生態について紹介します。

## ■ トカゲハゼとは？

ムツゴロウと似た生態をもつハゼの一種で、東南アジア・インド・北部オーストラリア等の泥干潟に分布しますが、日本では沖縄本島の中城湾のみに生息しています。

干潟に孔を掘って生活し、過度の汚濁がなく、餌となる微小生物が豊富な場所に生息します。

しかしながら、生息地が陸に近く、生息環境が陸上から排水等の影響を受けやすいため、絶滅寸前にまで減少してしまいました。



## ■ トカゲハゼの生活史

着底後急速に成長し、秋には 7~8cm に達し、親魚と同じ泥干潟に生息孔を掘って生活。1 年目で成熟し、寿命は 2 年程と考えられる。全長は 12~15 cm となる。



3 月の中旬頃、雄は雌を誘うため、求愛行動の一つであるジャンプを繰り返す。



4 月上旬から 6 月中旬にかけて、地中に造られた産卵室の中で、数千個~数万個産卵される。

孵化後 1 ヶ月余りの浮遊生活を送った後、細砂質の干潟で、干潮時でも水が溜まるような所に着底。30 日目で約 14~15 mm に成長。



孵化直後の仔魚。大潮の下げ潮に乗って干潟から湾内に出ていき、海域で生活する。全長は 2.2~2.3 mm

以上の結果は、静岡にある環境創造研究所や沖縄県中城湾の現地実験施設で行っているトカゲハゼの人工飼育と中城湾での現地調査、及び文献資料等により分かってきました。

現在、ヒヌマイトトンボの飼育にも取り組んでおり、その生態の解明と保全に取り組んでいます。

絶滅危惧種 ヒヌマイトトンボ

